

KISSEI

証券コード：4547

決算補足資料

2020年3月期 第2四半期

2019年11月6日

 **キッセイ薬品工業株式会社**

目次

【決算短信「経営成績に関する説明」より抜粋】	P 1
I. 連結損益計算書の推移	P 2
II. 連結貸借対照表の推移	P 4
III. 連結キャッシュ・フロー計算書の推移	P 6
IV. 配当の推移	P 7
V. 主な医薬品の売上推移	P 8
VI. 新薬開発状況（自社）	P 9
VII. 新薬開発状況（導出）	P 9

本資料記載の将来見通しは、既存の情報や様々な動向についてのキッセイ薬品による 2019 年 11 月時点での分析に基づいています。実際の業績は、事業に及ぼすリスクや不確定な事柄により見通しと異なることがあります。

【決算短信「経営成績に関する説明」より抜粋】

・売上高（医薬品事業）の状況

医薬品事業の売上高は、26,557百万円（前年同期比11.4%減）となりました。主力製品における積極的な医薬情報活動を推進いたしましたことなどにより、高リン血症治療薬「ピートルチュアブル錠」及び「ピートル顆粒分包」、過活動膀胱治療薬「ベオーバ錠」、糖尿病治療薬「グルベス配合錠」及び本年6月に新発売いたしました「グルベス配合OD錠」（剤形追加）などの売上が増加いたしました一方、前立腺肥大症に伴う排尿障害改善薬「ユリーフ錠」及び「ユリーフOD錠」の後発品の発売による売上の減少などにより、減収となりました。また、本年6月にフェリング・ファーマ株式会社との間で、日本国内におけるコ・プロモーション契約を締結いたしました男性における夜間多尿による夜間頻尿治療薬「ミコリンメルトOD錠25µg、同OD錠50µg」は、9月に新発売され、両社にて医薬情報活動を実施しております。なお、前立腺肥大症に伴う排尿障害改善薬シロドシン（一般名、日本製品名ユリーフ）は、アメリカでは特許満了に伴い後発品が発売されておりますが、欧州・中東・アフリカなどにおける技術導出先でありますレコルダッチ社（イタリア）では、当連結累計期間におきましても引き続き許諾地域内において製品育成を進めております。

・売上高（情報サービス事業）の状況

情報サービス事業の売上高は、3,225百万円（前年同期比34.0%増）となりました。情報機器レンタルにおきまして増収となったことなどによります。

・売上高（その他の事業）の状況

その他の事業の売上高は、1,765百万円（前年同期比46.0%減）となりました。物品販売業で増収となりましたものの、建設請負業におきまして減収となったことによります。

・利益の状況

利益面では、研究開発費を主に販売費及び一般管理費が減少いたしました一方、減収及び売上原価率の上昇がありましたことなどにより、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益は減益となりました。

・研究開発の状況

昨年9月に当社との共同開発先でありますJCRファーマ株式会社より承認申請が行われました腎性貧血治療薬ダルベポエチン アルファ（一般名）のバイオ後続品JR-131（開発番号）につきましては、本年9月の製造販売承認を受け、当社では薬価基準収載後に製品名「ダルベポエチン アルファBS注JCR」にて販売を開始するための準備を進めております。また、ライジエルフーマシューティカルズ社（アメリカ）との間で、日本・中国・韓国・台湾における独占的な開発権及び販売権取得に関する契約を締結いたしました慢性特発性血小板減少性紫斑病治療薬R788（開発番号、一般名：ホスタマチニブ）につきましては、この度、国内第Ⅲ相臨床試験を開始いたしました。なお、脊髄小脳変性症治療薬KPS-0373（開発番号、一般名：ロバチレリン）につきましては、第Ⅲ相臨床試験を終了し、これまでの試験により得られた結果について重症度による部分集団解析などの詳細な検討を行うとともに、当局との協議を進めております。

I. 連結損益計算書の推移

(百万円)

項目	2019年3月期		2020年3月期			
	第2四半期 累計	通期	第2四半期 累計	前同比	通期予想	前期比
売上高	35,665	72,297	31,548	△11.5%	62,000	△14.2%
医薬品事業	29,985	61,520	26,557	△11.4%	51,000	△17.1%
医薬品	25,003	50,958	20,764	△17.0%	40,700	△20.1%
ヘルスクエア食品	1,866	3,789	1,964	5.3%	4,000	5.6%
その他*	3,115	6,772	3,827	22.9%	6,300	△7.0%
情報サービス事業	2,407	5,532	3,225	34.0%	6,100	10.3%
その他の事業	3,271	5,244	1,765	△46.0%	4,900	△6.6%
(売上高のうち輸出)	(3,305)	(6,153)	(3,333)	(0.9%)	(5,300)	(△13.9%)
売上原価	13,507	26,731	12,850	△4.9%	27,500	2.9%
(原価率%)	(37.9)	(37.0)	(40.7)		(44.4)	
売上総利益	22,157	45,566	18,698	△15.6%	34,500	△24.3%
販売費及び一般管理費	17,905	39,363	16,364	△8.6%	33,000	△16.2%
研究開発費	6,302	15,711	5,059	△19.7%	10,600	△32.5%
(売上高比%)	(17.7)	(21.7)	(16.0)		(17.1)	
営業利益	4,252	6,202	2,334	△45.1%	1,500	△75.8%
営業外収益	639	1,224	678	6.2%	1,400	14.4%
受取利息及び配当金	595	1,112	614	3.3%		
その他の収益	44	111	63	45.0%		
営業外費用	198	257	155	△21.9%	200	△22.2%
支払利息	11	23	11	0.1%		
その他の費用	186	233	143	△23.3%		
経常利益	4,693	7,169	2,857	△39.1%	2,700	△62.3%
特別利益	1	4	28	-	1,650	-
特別損失	51	53	16	△68.6%	50	△5.7%
税金等調整前四半期(当期)純利益	4,643	7,121	2,870	△38.2%	4,300	△39.6%
法人税、住民税及び事業税	379	1,634	403	6.5%	400	△75.5%
法人税等調整額	915	△47	286	△68.7%	950	-
非支配株主に帰属する 四半期(当期)純利益	11	54	28	144.3%	50	△7.7%
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	3,337	5,481	2,150	△35.6%	2,900	△47.1%

(包括利益) (10,944) (8,903) (5,782) (△47.2%)

* : 国内販売提携先供給額、技術料売上（導出テーマに係る契約金、マイルストーン収入、ランニングロイヤリティ）、コ・プロモーションフィーの合計額

売上高	<p>実績： 医薬品事業：11.4%減収 医薬品が減少。医薬品ではピートル、ペオーバ、グルベス、レクタブルなどが増加したものの、後発品の発売によるユリーフの減少などにより全体では減少。一方、国内販売提携先への供給額は増加。 情報サービス事業：34.0%増収 情報機器レンタルが増収。 その他の事業：46.0%減収 物品販売業が増収、建設請負業が減収。</p> <p>予想： 医薬品事業：17.1%減収 医薬品では、引き続きピートル、ペオーバ、グルベス、レクタブルなどの育成を図るものの、ユリーフの減少や薬価改定の影響、輸出の減少などにより減収の見込み。 ヘルスケア食品は増加、その他は技術料売上、国内販売提携先への供給額がともに減少。 情報サービス事業：10.3%増収 情報機器レンタルが増収の見込み。 その他の事業：6.6%減収 物品販売業が増収、建設請負業が減収の見込み。</p>
売上原価	<p>実績：売上原価率は2.8ポイント上昇 医薬品事業の売上原価率は製品構成の変化などにより上昇。一方、情報サービス事業・その他の事業では事業構成の変化などにより低下。</p> <p>予想：売上原価率は7.4ポイント上昇 医薬品事業の売上原価率は製品構成の変化、薬価改定の影響などにより上昇を見込む。一方、情報サービス事業・その他の事業では事業構成の変化などにより低下を見込む。</p>
販売費及び一般管理費	<p>実績：前同比8.6%減少 販売費、一般管理費、研究開発費の全てで減少。研究開発費の減少は、前払費用（前払研究費）への振替え分の増加などによる。</p> <p>予想：前期比16.2%減少 販売費、一般管理費、研究開発費の全てで減少の見通し。研究開発費の減少は、前年度に計上した新規導入テーマの契約一時金の反動などによる。</p>
営業外損益	<p>実績：前年同期、今期ともに有価証券評価損を計上。</p> <p>予想：特別なものは見込んでいない。</p>
特別損益	<p>実績：前年同期は減損損失を計上、当期は固定資産売却益、同処分損を計上。</p> <p>予想：特別利益として投資有価証券売却益の計上を見込む。</p>

【その他項目（連結）】

(百万円)

項目	2019年3月期		2020年3月期			
	第2四半期累計	通期	第2四半期累計	前同比	通期予想	前期比
減価償却費	1,256	2,607	1,234	△1.7%	2,600	△0.3%
設備投資額	564	1,177	408	△27.7%	900	△23.5%
主要内容	生産設備等 117 その他 447	生産設備等 442 その他 735	生産設備等 78 その他 330		生産設備等 230 その他 670	
期末従業員数(人)	1,936	1,907	1,923	△13	-	-

II. 連結貸借対照表の推移

(百万円)

項目	決算期	2019年3月期		2020年3月期 第2四半期	増減 (対前期末)
		第2四半期	期末		
資 産	流動資産	98,780	95,782	98,106	2,323
	現金及び預金	29,646	26,325	35,864	9,538
	受取手形及び売掛金	26,413	26,963	19,391	△7,571
	特定金銭信託及び有価証券	26,936	26,651	26,478	△172
	棚卸資産	14,213	13,965	13,965	0
	その他の流動資産	1,570	1,877	2,406	528
	固定資産	123,478	117,739	122,803	5,063
	有形固定資産	25,861	25,503	25,007	△496
	無形固定資産	1,605	1,519	1,475	△43
	投資その他の資産	96,011	90,716	96,319	5,603
	投資有価証券	92,162	86,958	92,313	5,355
	長期前払費用	2,107	1,999	2,321	322
	繰延税金資産	600	644	590	△53
	その他の投資等	1,190	1,165	1,135	△30
	貸倒引当金	△50	△50	△42	8
	資産合計		222,258	213,522	220,909

現金及び預金	・利益による増加があったことに加え、前期末の金融機関休日による売掛金未決済の反動
受取手形及び売掛金	・前期末の金融機関休日による売掛金未決済の反動
特定金銭信託及び有価証券	・時価評価による評価損の計上による減少
棚卸資産	・医薬品事業における原材料の減少、その他の事業における未成工事支出金の増加
その他の流動資産	・医薬品事業における前払費用の増加、その他の事業における未収入金の減少
有形固定資産	・主として、減価償却による減少
無形固定資産	・主として、減価償却による減少
投資有価証券	・主として、時価評価による含み益の増加
長期前払費用	・減価償却による減少の一方で、新規取得資産の計上による増加

(百万円)

項目	決算期	2019年3月期		2020年3月期 第2四半期	増減 (対前期末)
		第2四半期	期末		
負 債	負債合計	36,342	30,814	33,587	2,772
	流動負債	15,160	13,801	14,888	1,087
	支払手形及び買掛金	4,649	4,347	3,909	△438
	短期借入金	1,750	1,764	1,754	△10
	未払法人税等	747	465	649	183
	その他の流動負債	8,013	7,223	8,575	1,351
	固定負債	21,182	17,013	18,698	1,685
	長期借入金	1,886	1,930	1,922	△8
	繰延税金負債	14,104	11,388	13,268	1,879
	退職給付に係る負債	4,357	2,750	2,606	△144
その他の固定負債	833	942	901	△40	
純 資 産	純資産合計	185,916	182,707	187,322	4,614
	株主資本	142,025	143,001	143,984	983
	資本金	24,356	24,356	24,356	-
	資本剰余金	24,226	24,226	24,226	0
	利益剰余金	105,050	106,026	107,009	982
	自己株式	△11,607	△11,607	△11,607	0
	その他の包括利益累計額	43,486	39,261	42,858	3,596
	非支配株主持分	404	444	478	34
負債及び純資産合計		222,258	213,522	220,909	7,387

支払手形及び買掛金	・医薬品事業における買掛金（原材料仕入）の減少、情報サービス事業における買掛債務の増加
未払法人税等	・所得減に伴う減少の一方、納税額の多寡に伴う増加
その他の流動負債	・医薬品事業における未払金の増加、その他の事業における未成工事受入金の増加
繰延税金負債	・投資有価証券の含み益増加に伴う増加
退職給付に係る負債	・年金資産の増加による減少
利益剰余金	・期中配当金支払い△1,167、親会社株主に帰属する当期純利益+2,150
その他の包括利益累計額	・投資有価証券の含み益増加に伴う評価差額金の増加、退職給付に係る調整累計額の増加

Ⅲ. 連結キャッシュ・フロー計算書の推移

(百万円)

項目	決算期	2019年3月期 第2四半期累計	2020年3月期 第2四半期累計	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー		7,904	11,989	4,084
投資活動によるキャッシュ・フロー		△1,467	△1,238	228
財務活動によるキャッシュ・フロー		△1,160	△1,205	△44
現金及び現金同等物に係る換算差額		2	△1	△3
現金及び現金同等物の増減額		5,279	9,544	4,264
現金及び現金同等物の期首残高		47,360	49,315	1,954
現金及び現金同等物の期末残高		52,640	58,859	6,218

主な増減要因（前年同期比）

1. 営業活動によるキャッシュ・フロー：増加

営業活動の結果得られた資金は、税金等調整前四半期純利益の減少、たな卸資産の増加など資金減少要因がありましたが、売上債権、法人税等の支払額の減少などが資金増加要因となり、前年同期に比べ4,084百万円増の11,989百万円となりました。

2. 投資活動によるキャッシュ・フロー：増加（支出減）

投資活動の結果使用した資金は、有形固定資産の取得による支出、長期前払費用の取得による支出の減少などにより、前年同期に比べ228百万円支出減の1,238百万円の支出となりました。

3. 財務活動によるキャッシュ・フロー：減少（支出増）

財務活動の結果使用した資金は、前年同期に比べ44百万円支出増の1,205百万円の支出となりました。

IV. 配当の推移

(円)

項目 \ 決算期	2017年 3月期	2018年 3月期	2019年 3月期	2020年 3月期予想
中間配当	23	24	25	26
年間配当	46	48	50	52

(参考)

(百万円)

自己株式の取得 (取得株式数)	1,647 (610千株)	4,462 (1,600千株)	- -	- -
自己株式の消却 (消却株式数)	- -	5,695 (2,500千株)	- -	- -

V. 主な医薬品の売上推移

(百万円)

製品名	決算期 2018年 3月期	2019年3月期		2020年3月期			
		第2四半期 累計	通期	第2四半期 累計	前同比	通期予想	前期比
排尿障害改善薬 ユリーフ	17,235	8,787	17,810	3,540	△59.7%	6,200	△65.2%
過活動膀胱治療薬 ベオーバ	-	-	706	485	-	2,100	197.1%
高リン血症治療薬 ピートル	4,274	2,310	4,801	2,925	26.6%	6,300	31.2%
腎性貧血治療薬 エポエチンアルファBS注JCR	6,093	3,000	6,015	3,073	2.4%	5,000	△16.9%
腎性貧血治療薬 ダルベポエチン アルファBS注JCR	-	-	-	-	-	500	-
糖尿病治療薬 グルバス	4,477	2,213	4,428	2,350	6.2%	4,800	8.4%
糖尿病治療薬 グルファスト	2,762	893	1,678	752	△15.8%	1,300	△22.5%
口腔乾燥症状改善薬 サラジェン	1,561	814	1,617	828	1.7%	1,600	△1.1%
潰瘍性大腸炎治療薬 レクタブル	228	288	663	381	32.1%	1,000	50.7%
高脂血症治療薬 ベザトール	2,564	898	1,709	748	△16.7%	1,420	△16.9%

VI. 新薬開発状況（自社）

(2019年11月現在)

開発段階	製品名／ 開発番号 (一般名)	開発区分	予定適応症	主な作用等	備考
承認取得	ダルベボエチン アルファ BS注JCR	導入品/JCRファーマ 共同開発	腎性貧血	赤血球増加作用	ダルベボエチン アルファ バイオ後続品
第Ⅲ相	KPS-0373 (ロパチレリン)	導入品/塩野義製薬	脊髄小脳変性症	甲状腺刺激ホルモン放出 ホルモン(TRH)作用	第Ⅲ相臨床試験終了 PMDAと協議中
	AJM300 (カテグラストメチル)	導入品/EAファーマ 共同開発	潰瘍性大腸炎	α4インテグリン阻害作用	
	CCX168 (アパコバン)	導入品/ピフォー・プレゼ ウス・メディカル・ケア・ リーナル・ファーマ(スイス)	顕微鏡的多発血管炎、 多発血管炎性肉芽腫症	補体C5a受容体阻害作用	
	R788 (ホスタマチニブ)	導入品/ライジェルファーマ シューティカルズ(アメリカ)	慢性特発性血小板 減少性紫斑病	チロシンキナーゼ阻害作用	
第Ⅱ相	KLH-2109 (リンザゴリクス)	創製品	子宮内膜症	GnRHアンタゴニスト	
	MR13A9 (ジフェリケファリン)	導入品/丸石製薬 共同開発	透析患者における そう痒症	κオピオイド受容体刺激作用	
	KDT-3594	創製品	パーキンソン病	Dパミン受容体刺激作用	
第Ⅰ/Ⅱ相	YS110	導入品/ワイズ・エー・シー、 東京大学、日本医療研究 開発機構(AMED)	悪性中皮腫	抗CD26ヒトモノクローナル 抗体	

※ 前回公表時（2019年7月）からの変更点：①ダルベボエチン アルファBS注JCR … 承認申請中 → 承認取得
②ホスタマチニブ … 第Ⅲ相（新規掲載）

VI. 新薬開発状況（導出）

(2019年11月現在)

開発段階	開発番号／ 一般名	提携企業	権利地域	予定適応症	主な作用等
承認申請中	ミチグリニド (mitiglinide)	エーザイ(日本)	アセアン*1	2型糖尿病	速効・短時間型 インスリン分泌促進作用
	シロドシン (silodosin)		アセアン、インド、スリランカ *2	前立腺肥大症に 伴う排尿障害	α1Aアドレナリン受容体 拮抗作用
第Ⅲ相	KLH-2109 (linzagolix)	オブシーバ(スイス)	日本、一部のアジアを除く 全世界	子宮筋腫	GnRHアンタゴニスト
	KLH-2109 (linzagolix)	オブシーバ(スイス)	日本、一部のアジアを除く 全世界	子宮内膜症	GnRHアンタゴニスト
第Ⅱ相	ベドラドリン (bedoradrine)	メディシナバ(アメリカ)	日本を除く全世界	喘息の急性発作	β2アドレナリン受容体 刺激作用

※ 前回公表時（2019年7月）からの変更点：なし

*1：発売：タイ、フィリピン、カンボジア、ミャンマー、承認：ラオス、申請中：ベトナム

*2：発売：タイ、インド、インドネシア、フィリピン、カンボジア、ミャンマー、マレーシア、申請中：アセアン2か国